

数多の古墳を築く

あまた

— 群集墳からよむ古墳時代 —

会期 令和6年 10月5日(土) — 12月8日(日)

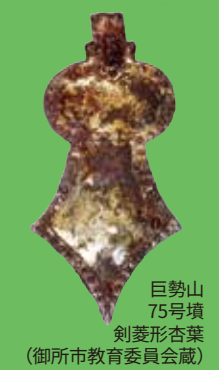
上左 平林古墳 画文帯四仏四獣鏡(奈良県立橿原考古学研究所附属博物館蔵)
 上右 龍王山C-3号墳 単鳳環頭大刀(奈良県立橿原考古学研究所附属博物館蔵)
 下左 大石古墳 配像付高杯形器台(八尾市立歴史民俗資料館蔵)
 下中 平尾山古墳群平野・大泉第10支群1号墳 銀製指輪(柏原市立歴史資料館蔵)
 下右 井辺八幡山古墳 武人埴輪(同志社大学保管 和歌山市蔵)
 背景 岩橋千塚古墳群(昭和29年撮影 和歌山市提供)



石光山8号墳 鞍飾金具(奈良県立橿原考古学研究所附属博物館蔵)



巨勢山古墳群 巨勢山408号墳
横穴式石室 土器出土状況(御所市教育委員会提供)



巨勢山
75号墳
剣菱形杏葉
(御所市教育委員会蔵)



一須賀古墳群WA4号墳
須恵器 子持器台
(大阪府立近つ飛鳥博物館蔵)



特別史跡岩橋千塚古墳群 前山A13号墳 横穴式石室



祇井戸6号墳 須恵器・製塩土器(御坊市教育委員会蔵)



山東22号墳 銀象嵌罽【初公開】
(和歌山県教育委員会蔵)

崎山14号墳 勾玉
(印南町教育委員会蔵)



井辺前山37号墳 箱式石棺(大野嶺夫氏撮影)

岩橋千塚古墳群は、和歌山市東部に位置する岩橋丘陵に築かれた国内有数の大規模群集墳です。4世紀末から7世紀まで総数約900基が築造され、大型前方後円墳の周辺に多数の小型円墳などが累々と築かれる群集墳の景観は6世紀に形成されました。

近畿地方では、6・7世紀に約100基から1000基以上の小型円墳などが密集する大規模群集墳が形成されていますが、これらの群集墳は中間層の人びとが力を伸ばしたことや、ヤマト王権が地域支配を強化したことを背景に出現したと考えられています。

本展では、九州との繋がりを示す岩橋型横穴式石室や、古墳の構成に強い個性が認められる岩橋千塚古墳群をはじめ、和歌山地域の群集墳と、奈良県・大阪府など近畿地方の大規模群集墳を紹介し、古墳時代後半期に群集墳が出現した歴史的背景と和歌山地域の特色を探ります。



交通 ■JR和歌山駅東口から和歌山バス「紀伊風土記の丘」行 約20分 終点下車
※最新の情報はバス会社へお問い合わせください。
■阪和自動車道と和歌山インターから車で約5分

シンポジウム「畿内と紀伊の群集墳からよむ古墳時代社会」

日時	令和6年11月17日(日) 13:00～16:30
「群集墳と古墳時代社会」	太田 宏明氏 (河内長野市教育委員会)
「副葬品からみた群集墳の被葬者像—畿内地域を中心に—」	絹島 歩氏 (奈良県立橿原考古学研究所)
「紀伊地域における6・7世紀の群集墳の展開」	萩野谷 正宏 (当館)
	討論司会/仲辻 慧大氏 (和歌山県教育庁)
会場	和歌山県立紀伊風土記の丘
定員	60名(要事前申込・先着順)
参加費	無料(無料開放の日) 別途シンポジウム予稿集を販売予定
申込方法	11月1日(金)13:00～当館ホームページ(申込フォーム)、電話または資料館受付

連続講座

第1回	令和6年10月13日(日) 13:30～15:00
「葛城山麓の群集墳—寺口忍海古墳群を中心に—」	神庭 滋氏 (葛城市歴史博物館)
第2回	令和6年10月20日(日) 13:30～15:00
「高安山麓の群集墳」	藤井 淳弘氏 (八尾市観光・文化財課)
第3回	令和6年11月3日(日・祝) 13:30～15:00
「群集墳と土器使用儀礼」	仲辻 慧大氏 (和歌山県教育庁)
会場	和歌山県立紀伊風土記の丘
定員	60名(要事前申込・先着順)
参加費	入館料+資料代100円
申込方法	①9月26日(木)、②9月27日(金)、③10月17日(木) いずれも13:00～当館ホームページ(申込フォーム)、電話または資料館受付

学芸員による展示解説

令和6年10月27日(日)、11月10日(日)、11月24日(日)、12月8日(日)					
時間	13:30～14:00	参加費	無料(要入館料)	参加方法	当日受付

背景写真/特別史跡岩橋千塚古墳群 復元整備された前山A58号墳

和歌山県立紀伊風土記の丘

〒640-8301 和歌山市岩橋 1411 [ホームページ] <https://www.kiifudoki.wakayama-c.ed.jp>
[TEL] 073-471-6123 [Eメール] kofun@kiifudoki.wakayama-c.ed.jp
[FAX] 073-471-6120 [公式X(エックス)] <https://x.com/kiifudokinooka>



紀伊風土記の丘HP